

強者の戦略

こんにちは、世界史の北林です。今回は東京大学の問題を扱ってみようと思います。

【東京大学 2006年 前期 第1問】

近代以降のヨーロッパでは主権国家が誕生し、民主主義が成長した反面、各地で戦争が多発するという一見矛盾した傾向が見られた。それは、国内社会の民主化が国民意識の高揚をもたらし、対外戦争を支える国内的基盤を強化したためであった。他方、国際法を制定したり、国際機関を設立することによって戦争の勃発を防ぐ努力もなされた。

このように戦争を助長したり、あるいは戦争を抑制したりする傾向が、三十年戦争、フランス革命戦争、第一次世界大戦という3つの時期にどのように現れたのかについて、解答欄(イ)に17行(510字)以内で説明しなさい。その際に、以下の8つの語句を必ず一度は用い、その語句の部分に下線を付しなさい。

ウェストファリア条約	国際連盟	一四カ条
『戦争と平和の法』	総力戦	徴兵制
ナショナリズム	平和に関する布告	

少し前の東京大学の問題です。戦争を助長・抑制する傾向、、、なかなか難しいですね。

いろんな考え方があるかと思いますが、教科書など何を見てもかまわないので、文章を作る前のメモを作成していきましょう。